



新しいピクトグラム

11月に横浜市で開かれたAPECは、初めての大都市での開催となることから、全国から集められた警察官による厳戒態勢の報道が目についた。そんななか、会場となった横浜には、会期中に外国の首脳や報道陣ら約8千名が滞在し、宿泊先の6つのホテルで、レストランのメニューに、食材を表す新しいピクトグラム（絵文字）が導入されたことが話題となった。

食物に対するアレルギーや宗教上の理由から、食べるものを限定される人は多い。飲食店のメニューや食品の包装材に原材料名が表示されるようにはなったが、統一的な規準はなく、国内では日本語や英語など限られた言語で表示されるにとどまっている。

今回の食材ピクトグラムは、横浜市の印刷会社と大阪市にあるNPO法人が提言したものだ。

アレルギー物質の特定原材料7種（卵・小麦・乳・そばなど）に宗教上の配慮から必要とされた牛・ぶた・アルコールなどを加えた14種が開発された。

ユニークなのは、その開発のきっかけが大学生の外国人との交流から生まれた点だ。大阪のNPO法人は、もともとその代表が大学生のときに、大阪を訪れた外国人を案内した際のできごとが設立のきっかけだった。日本料理屋で昼食を取ろうとしたが、食べ物にどんな食材が入っているかわからないため、ファストフード

店に行かざるを得なかったという。それからことばの壁を越えて豊かな食文化を味わえる社会をつくろうとNPO法人を立ち上げたそうだ。

*

ピクトグラムをめぐる最近の話題としてもう一つ。病院に入院する患者の状態を表す「医療看護支援ピクトグラム」が民間の研究会によって開発された。

食事制限や治療の中身などをピクトグラムで表示することで、その患者に対してどう対応すればよいのかを、医師・看護師・面会者などが情報を一目で把握し、共有できる利点がある。

まだ施設への導入は少ないようだが、「患者ができるだけいつもと同じ生活を送れるように、周りの人が支援をやすくする」という開発の理念は、だれもが支持するところだろう。

常用漢字の改定については、さまざまな議論の末、告示をされた。ことばは、必要とされるコミュニケーションの変化に合わせて、つねにその姿を変えたり、新たな道具を生みだしていくものようだ。

参考資料：

NPO法人「インターナショナル」サイト
<http://www.i-nsl.org>

「ベッドまわりのサインづくり研究会」サイト
http://www.lab.toho-u.ac.jp/project/kango/healthcare_pict